



“よねやま”から広がる新しい世界 ③

互いに学び合う喜び



貝塚コスモスRC
(第2640地区 大阪府)

カウンセラー
松岡 一友さん

彼との対話が思い出

イキリョン
李吉鎔君は私がカウンセラーをした初めての奨学生で、20年来の付き合いになります。

奨学期間2年目に、彼が大学に退学届を出すという事態に直面しました。留学生なら誰もが経験するカルチャーショックによるものですが、李君の場合、歴史観や価値観、自分を支えていた基盤のすべてが崩れる深刻なものでした。指導教官から「彼は非常に優秀な学生です。どうかサポートしてやってください」と頼まれ、精神科医をしている会員の協力を仰ぎ、私自身も症例を探して書物をあさって、何度も何度も話し合いました。私の胸に顔をうずめて泣き出したこともありました。彼の心をどう受け止めるか、進む道を一緒に模索する日々でした。立ち直り、無事卒業した後も、彼とはいろいろな話をしました。振り返れば、一番心に残っているのは、彼と交わした対話そのものです。

クラブを挙げて学生の支援と交流

当クラブは1994年に創立し、会員数は現在13人と小規模ですが、青少年育成にはかなりの熱意があり、米山記念奨学事業にも理解のあるクラブです。96年からは独自に「コスモス奨学金」を作って、元米山奨学生の学位取得の応援や、経済的援助を必要とする日本人学生のために、月額5万円を支給しています。

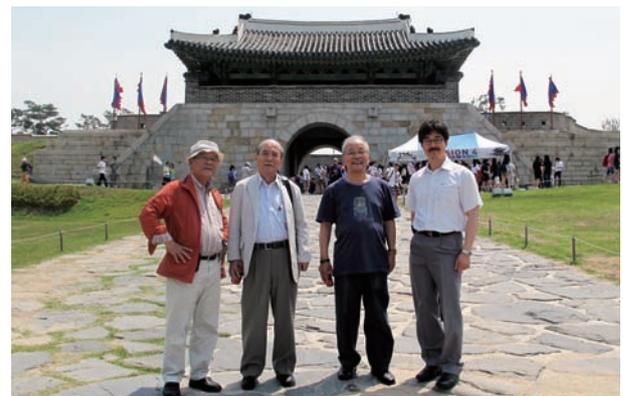
会員の中には、反日国からの留学生支援に疑問を呈する声もありましたが、その都度、「一人の人間として見てやってほしい」と説得しました。その代わりに、奨学生

には月1度の例会はもちろん、クラブ行事には友人を連れて参加してもらい、できる限り多くの会員と交流してもらおうようにしています。奨学期間が終了しても、日本にいる間は家族例会などへの参加を呼びかけますし、帰国後も、カウンセラーが中心となって連絡を取り合っています。会員が米山学友の母国に行くときは、必ず再会するようにしています。

クラブでは会員有志が歴史ツアーを実施しており、最近では韓国に行って、李君に歴史博物館や日韓に関わりの深い古跡を案内してもらいました。日韓がどのような関係にあったのか、公平な視点で一緒に勉強しています。

重要なのは心の触れ合い

重要なことは、お世話をする期間中に、どれだけ心の触れ合いができるかだと思います。私たちロータリアンと留学生とは、もともと立場が違います。奨学金を支給する側、支給される側としての壁もあります。その壁をどこまで壊せるか、どこまで対等に付き合えるか。奨学生側の理解を求めるばかりでなく、われわれも奨学生の母国の状況や立場を学ばなければ、通じる話も通じません。米山にかかわる以上、その努力は絶対に必要だと思っています。これからも、米山奨学事業をロータリアンと奨学生だけの関係にとどめるのではなく、奨学生の友人、地域の若者たちへと友情の輪を広げ、彼らの成長と世界の平和につなげてほしい、と願っています。



韓国で再会した松岡氏(左端)と李氏(右端)

貝塚コスモスロータリークラブ（RC）は青少年育成、米山記念奨学事業に理解のあるクラブで、これまで世話をしたほとんどの米山奨学生と、奨学期間終了後も親しく交流を続けています。その深い交流が生まれる一つの例として、元米山奨学生・李吉鎔イキリョンさんとそのカウンセラーを務めた松岡一友さんに、それぞれの思い出から現在に至る信頼を築くまでのエピソード、将来への思いなどを語っていただきました。



韓国・中央大学校アジア文化学部
副教授

イキリョン
李吉鎔さん

出身：韓国

奨学期間：1997 - 99

学校名：大阪大学大学院

アイデンティティー崩壊の危機を乗り越えて

私は1970～80年代の韓国で愛国教育を受けて育ちました。来日後、日本について教わったことが嘘だとわかって、結局、韓国人として韓国文化を背負ってしか生きられない自分が苦しく、存在価値すら見失っていました。しかし、現在の妻や松岡さん、貝塚コスモスRCの皆さまの支えで乗り越えることができました。

松岡さんは博識な方です。特に日中韓の歴史や社会に精通しており、自分の見識の無さが恥ずかしくなるばかりでした。自分の悩みや日韓関係のこと、人生のこと、どれほど語り合ったことでしょう。今、松岡さんに感じることは「信頼」の一言に尽きます。

「信頼」といえば、2005年に博士号を取得した時、すでに奨学期間は終わっていましたが、世話クラブの皆さまが祝賀会を開き、日本に来た両親を歓待してくれました。両親は「ロータリーの方々の信頼に応えら

れる人物になるように」と、繰り返し私に言ったのを覚えています。

韓国社会を変えていくために

私は現在、韓国の大学で教鞭きょうべんを執っています。専門は社会言語学で、特に社会的弱者にかかわる言語に関心を持っています。学生にはこのほか、近現代日韓関係史も教えており、共に学ぶ日々です。

私は娘に無益な反日教育を受けさせたくありません。そのこともあって、韓国の社会・教育改革を目指す「民主化のための全国大学教授協議会」のメンバーとなり、授業や講演会などで韓国人の「対日意識」を取り上げ、韓国の社会構造を解剖し、警鐘を鳴らしています。韓国にも、変わらないといけないと思う人たち、韓国社会を変えるために行動している人たちがいます。日中韓が現在のような対立パラダイムではなく、「東アジア共同体」で結ばれるよう、これからもロータリーの精神、日本の心、そして韓国の良き文化を大事にし、研究、教育、社会活動を続けていきたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業、または“よねやまだより”に関するお問い合わせ・ご意見を、当奨学会までお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



学友の結束を強めて2016年国際大会へ —— 韓国米山学友会総会 ——



チームワーク抜群の韓国米山学友会役員

韓国米山学友会総会が11月15日、ソウル市内で開催され、韓国学友とその家族55人のほか、日本からもロータリアンや学友会有志など21人が駆けつけました。総会では今年度から学友会長を務める全炳奘ジョンビョンテさん（1980-83 / 仙台北RC / 現・セソウルRC会員）が1年を振り返り、「役員20人の結束が強まったのが大きな成果。このメンバーでなら、いろいろなことに挑戦できる」とあいさつ。また、小沢一彦米山記念奨学会理事長は、2016年ソウル国際大会への登録を強く呼びかけました。全会長のリーダーシップのもと、韓国学友会のこれからの活躍に熱い期待が寄せられています。